

南アルプス井川における消滅危機方言の記録保存と継承

谷口ジョイ（静岡理工科大学情報学部 教授）

1 研究の背景

南アルプスの玄関口とされる旧井川村（現・静岡市葵区井川）は、地理的に他地域から断絶されていた「言語の島」である。中部地方では唯一、無アクセントであるなど、周辺の中部方言とは異なる言語的特徴が見られる。また、語彙や語法には、古語（上代東国方言）の残存が見られ、学術的にも関心を集めてきた。しかし現在、実証的な研究がほとんど行われておらず、その調査は急務であった。また、近年、井川方言は、その話者が激減し、衰退・消滅の危機にある。

2 研究の方法

- (1) 文献研究：参考文献、先行研究を渉猟・調査し、危機的状況にある言語・方言に関する研究の概要を整理する。
- (2) フィールド調査：大井川最上流域で使用される井川方言について、複数の集落において実地調査を行う。得られたデータは、データ・サイエンスの手法を用いて可視化し、方言衰退の傾向を分かりやすく示す。
- (3) 記録・保存・アーカイブ化：紙媒体の配布物（イラストを付した冊子を予定）を制作する。制作にあたっては、高齢者らと協働し、地域が利用可能なリソースとして、井川支所および井川の教育機関などに寄付する。また、地域コミュニティの高齢者と「辞書を作る会」を発足し、語彙の選定や例文の読み上げを依頼する。
- (4) 地域への研究成果還元：地域住民を対象としたワークショップ、およびシンポジウムを開催し、アンケート等による事後評価を実施する。

3 研究の成果

- (1) 文献研究およびフィールド調査：井川方言の使用・理解を調査し、データ・サイエンスの手法を用いて、その結果を可視化した。方言衰退の現状を地域の方に分かりやすく示した。
- (2) 記録・保存・アーカイブ化：井川地域の高齢者と連携し、井川に伝わる民話を収集し、冊子「井川の民話」を制作した。また、その一部をインターネット上で公開した。さらに、子どもたちが井川方言に親しめるように「てしゃまんく」という民話を紙芝居にし、井川こども園、井川小中学校などに配布した。紙芝居制作の過程は、静岡放送、静岡新聞などで広く報道された。また、地域コミュニティが利用できるリソースとして、井川方言のオンライン辞書 (<https://kikigengo.ninjal.ac.jp/nrdb/goi.html>) を整備する活動を進めた。
- (3) 成果の発表：2024年10月5日（土）にシンポジウム「のこしたい 私たちのことば」を開催した。消滅の危機にある井川方言を後世に残すために、私たちに何ができるのか、というテーマで講演を行い、井川方言の継承を实践する上での課題やその解決方法について議論を深めた。また、2024年11月22日（金）に「井川昔語りの会」を開催し、地域の高齢者とともに、井川方言の現状、および継承・再活性化について検討する機会を設けた。



4 研究の意義と展望

- (1) 本研究によって、井川方言の記録・保存・アーカイブ化を行い、研究者コミュニティだけではなく、地域が利用可能なリソースとし、研究成果を地域に還元することができた。井川方言の資料、あるいは、音声・動画コンテンツを紙媒体の冊子やインターネット上で公開し、地域コミュニティが利用可能なリソースとして提供することが可能となった。
- (2) 地域コミュニティの高齢者と協働し、啓蒙・教育活動を実施することによって、限界集落に暮らす高齢者が活躍できる場を創出することができた。